

すべては、目から始まる

目は心の窓と言われる。

物音に驚いて慌てて水面から飛び立つた水鳥を、その女性の瞳から見出したのは、日本浪漫派の作家、太宰治だ。

目は人間の心を映し出す鏡とも言われている。目を見ることで私たちは、相手の心を知らず知らず読もうとし、外観を判断しようとしているのではないか。

「一瞥」というのは、文字通り一瞬にして他者を鑑別する無意識の能力である。翻って、自分のことを考えてみてほしい。迷いが生じたときやひらめきを感じたとき、目が動くのを経験したはずだ。その、目。

人相学でも、目は特に重要なポイントになっている。そこで、この連載では、まず形状から見えた目の半別

さて、前置きが長くなってしまった。目の判別方法である。

まず形状から入ることにしようか。

トになっている。

「三眼六神の法」

「眼幅十一相の秘伝」

人相学に伝わる奥義である。

そもそも、人相学も含めて、観相学と言われているものは、過去の先人達の経験則をもとにして作られたものが、一つのパートだけで判断することにはほとんどやらない。正確を期するためにも複数の項目で総合的に判断する。

●丸い目と細い目――次に丸い目と細い目の違いはどうなのか。感受性が強く、他人の目には二重人格と映ることがもあるのが、丸い目の特徴。おおらかな性格だと考えがちだが、大間違い。執着心が強く貪欲な一面もある。

細い目の人々は、慎重で思慮深く、洞察力がある。周囲の目には多分、「頼りがいがある人物」と映るはずだ。秘密の保持が要求される経理関係の部署や開発関連の部署には最適と言えるだろう。ただ、一步間違えると、「オタク」や「マニア」の道にはまりこんだりする可能性も無きにしもあるらしく。

ツキの達人 顔相学入門 ①

竹村亞希子

・本シリーズは月に1回お届けいたします

● 目尻の上がり下がり——目尻が上がっているか、下がっているかもチェックが必要で、目尻の上がっている人は、気性が激しく負けず嫌いの性格。他人に対しても批判的で、失敗に対しては、自己共に過失を許さない潔癖な性格の持ち主。ただし、世話好きな一面もあり、付き合ってみると意外にいい人かも知れない。

「少し上がりすぎかな」というのは要注意で、とても嫉妬深かったりも。それでは下がり目の場合はどうなか。『温厚で篤実』という言葉が、まさに的確に当てはまる性格で、他人に対するもの、概ね好人物と言えるはず。とはいっても、あまり目尻が下がりすぎているのは、「単なるスケベ一人ムババだったり、スローモーであったりするものの、概ね好人物と言えるはず。とはいっても、あまり目尻が下がりすぎているのは、「単なるスケベ一人ムババだったり、スローモーであつた

間」で終わりそうだが……。● 出目と奥目——「出目」と「奥目」の場合はどうなのか。いわゆる出目と呼ばれる人は、男難女難の相ありと言われ、夫婦関係に要注意というわけだ。奥目の場合は神経質だと思ったほうがいいだろう。

● 象目——切れ長の目の持ち主は、思考力に長けるものの、少し陰気な性格が気になる。人相学では「象目」と呼ぶ。

● 角眼——かくがん。上瞼はまっすぐなのに、下の瞼が三角形の目である。

この目の持ち主は、巧言令色。表面的には情熱家に見えてしまうから、かえって危険な人物と言えそう。

その人の現在の運気がもっとも顕著に表出しているのが、目。まずは、目から見極めてみよう。

まとめ

目の捉え方についてのまとめをしてみよう。目に力がある人は、運気が盛



竹村亞希子

占いの玉手箱代表。占いをビジネス化、イベント企画、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの占いコーナー、講演、執筆など多忙にこなす。講談社「フライデー」では、創刊以来占いのコーナーを担当。また88年岐阜県未来館の「世界占い館」の企画プロデュースに有名。創刊以来、多くの経営者を見てきた経験から「ツキの人生、チャンスをつかめる人生」を見極める達人になる。占いのスタッフは30名

んである。このことは確かである。目の動きが元気な人もまた同じ。落ち着かない人であり、信用してはならない。黒目に煙のようなものが見られる人は、近くトラブルが発生する暗示あり。要注意。白目の部分が煙がかかったようならば、やはり近々に体調を崩すとか、事故に巻き込まれるといった警報であると思つて間違いない。苦労ばかり多くて、なかなか実りが得られない低调な時期だと考えて対応することをお勧めする。

その人の現在の運気がもっとも顕著に表出しているのが、目。まずは、目から見極めてみよう。